

# 東京教区時報

第1083号  
2008年6月8日発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)  
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇6月の代禱・信施奉献先  
▽野宿生活者の休息施設のため(きぼうのいえ)▽葛飾学園(サンピエール・保育園)のため▽沖縄教区のため▽沖縄週間沖縄慰霊の日6・23を含む1週間)▽エリザベスサンダースホームのため

◇堅信受領

6月1日 聖アンデレ教会  
▽石垣里佳子(聖アンデレ)

◆とこしえの平安

5月9日 尾高 益男(97) 聖アンデレ  
5月15日 緒方 郁俊(66) 三光  
5月15日 茂木 虎雄(81) 聖ペテロ  
5月18日 黒田りう子(90)

今週・来週の予定

6月8日~21日

8(日) 聖霊降臨後第4主日 主教巡回 聖愛教会  
9(月) 教財務サービス委員会  
10(火) 銀座朝祷会 常置委員会  
13(金) 広報委員会  
15(日) 聖霊降臨後第5主日 主教巡回 月島聖公会 教役者会  
16(月) 山手G牧師協議会 (聖三一) 人権委員会(聖バルナバ) 拡大聖職会  
17(火) 礼拝音楽委員会 正義と平和協・運営委員会  
18(水) 教役者レクイエム (主教座) 月島~特別委員会  
19(木) 主教座聖堂活動委員会 信徒講座:雨宮神父(池袋)  
20(金) 城南G牧師協議会(三光)

▽浦安伝道所(横浜教区)『い

伝道所。

5月27日 篠村喜久子(75) 池袋  
5月31日 清水 和夫(82) 目白  
6月2日 向井 信一(85) 千住基督  
聖パウロ  
047(354)2516 同  
のち』を考えるシリーズ⑩「講演会」ホスピスケアをとおしてみたいのちの本質」、講師・山本雅基(「きぼうのいえ」施設長)。6月14日(土)14時~16時、浦安市民プラザWAVE101ホール、入場無料。照会 047(354)2516 同

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

立教大学学生相談所は「よろず相談所」です。創設以来約54年間で相談内容の中心は、経済↓学業・就学↓対人・心理関係へと大きく変化してきています。40年前は相談学生10人のうちカウンセラール・精神科医を紹介する学生は1・2人でしたが、近年はその数が5・6人になってきています。

学生相談所

内藤 武

変化の背景に

は、イジメの増加、両親の離婚・不和の増加、少子化、核家族化、地域コミュニティの崩壊、成果主義(効率化、競争)が生むストレス等が考えられます。さまざま要因で傷つき、人間不信や自信喪失にある学生は人間関係のちよつとした躓きでウツ状態(引きこ

《恵みに生かされて》

もり状態)に陥ります。イジメに関しては、大学入学以前にイジメられた体験を持つ学生は約20%(在籍学生総数に当てはめると約3千人)と、驚くべき数になります。

「:愛のゆえに」切り捨てることなく』一人一人の学生の魂を気遣い、大學生生活を有意義に送ることができるよう助言するという建学の精神が脈々と継承され、息づいていく一隅こそ学生相談所で

す。」は、元学生部長中沢宣夫先生のお言葉です。今後この言葉を支えに、悩める学生が学内外の人々との出会いを通して、人間不信・自信喪失から自分自身を取り戻すことができるように支援していきたいと思っています。

(立教学院新座キャンパス勤務)

日本聖公会総会(5月27日)29日)続報 \*大阪教区主教選挙Ⅱ大西修司祭(中部教区名古屋聖マタイ教会牧師)を選出。  
\*管区総主事任命Ⅱ相澤牧人司祭(横浜教区小田原聖十字教会牧師) 「総会関連記事Ⅱ次15日号以降で掲載予定」

### 信仰と生活委員会報告

(5月23日)

\*青年活動支援部会より、各教会に青年担当窓口を置くよう、引き続き呼びかけを要請。  
\*雨宮慧神父信徒講座(6月7日・19日)の準備確認。秋期信徒講座は山口里子講師で企画。  
\*昨年のソウル教区での研修その後の、経過報告。  
\*「献金教育」について継続審議3回目；、関連して、教会個々が

抱える課題を討議する場を別に設けるなどを協議。

\*一粒の麦の会(教会巡り(6月28日)、日本聖公会婦人大会(6月12日)などの進捗報告。

\*NCC世界祈祷子ども礼拝(6月14日・聖バルナバ)の紹介・報告。

\*正義と平和協議会、SS連絡会、各教会G協議会及び管区関連の諸活動の連絡・報告、他。

### ▽日本聖公会宣教150周年

記念礼拝Ⅱ明年秋(9月23日)・香蘭女学校 「こぎ出せ、沖へ」の呼び掛けで、カンタベリー大主教を迎える管区大催事。実行委員長は植田仁太郎教区主教。追って詳報。

### ▽日本聖公会婦人会組織成立

100年記念礼拝 6月12日

(木)13時、大阪・川口基督教会、説教者・竹田眞主教(前東京教区主教、元日本聖公会首座主教)。

同教会は発祥時の礼拝場所でもあった。なお催事はテーマ「神の息吹をうけて100年」のもと13日まで開催。東京教区からも同会関係者(宮元日聖婦会長2人)10数人が参加する。

### ▽聖アンデレ教会(教会にJ

AZZが来た!) 8回目となるビッグバンドジャズ・チャリティーコンサートで、竹下ユキ&ビックウイング・ジャズオーケストラの出演。6月21日(土)18時開演。チケットⅡ前売り千800円、当日券2千円。予約・照会先Ⅱ事務局・潮田03(3431)5038。

### 【学びと働きから】77

#### 『共同の宣教』の第一歩

聖公会とルーテル教会は、北欧のルーテル教会と英国聖公会の間で1996年に、米国の両教会間では2002年にそれぞれ共同声明が発表されました。その邦訳書『共同の宣教』に召されて(『教文館刊』)の出版を機に合同礼拝が計画され、5月11日聖霊降臨日、聖アンデレ主教座聖堂での集会には350人以上が集いました。

第一部では両教会の紹介(江藤直純牧師、市原信太郎司祭と対話の意味(西原廉太司祭)を聞き、第二部として植松誠首座主教、加藤博道主教の司式によって聖餐式がささげられました。聖公会の『祈祷書』に基づき、

ルーテル教会の『礼拝式文』の要素を採り入れた聖餐式は、聖歌もチャントも両教会からのものを織り込み、両教会の聖歌隊が賛美を彩りました。両教会の聖職者が共に立ちキリストの体と血を会衆に分餐する姿は、まさに「共同の宣教に召されて」いる明らかなるしであったと言えましよう。

両教会のエキメニズム委員会によって組織された「合同委員会」が主催し、東京教区礼拝音楽委員会と主教座聖堂活動委員会が実務協力機関となって、ルーテル教会担当者と共に礼拝を準備しました。そこで新たに作られた「特待」は、今回の合同礼拝の意向を明確に表しています。「多様な伝統をもつわたしたち

を聖霊によって一つとし、その歩みを励まし強め、神の豊かさを示す器としてください」と。

また、説教者の徳善義和牧師は、「主に守られて、主に祈られて、わたしたちは一つになるのです。神の救いのご計画の中に両教会の宣教は導かれ、神学的な対話はその方向性を確認するものであり、祈りを共にして信仰を体験すること、『草の根のエキメニズム』が何よりも重要：」と語られました。

そのように聖公会・ルーテル教会合同礼拝は、日本における両教会が『共同の宣教』に召されて『いること』の第一歩を感じ合えた、恵みと希望の瞬間でした。

司祭 宮崎 光  
(教区礼拝音楽委員会委員長)